

予 算 要 求 資 料

令和6年度当初予算

支出科目 款：民生費 項：社会福祉費 目：社会福祉諸費

事業名 災害時専門ボランティア受入推進事業費補助金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

健康福祉部 地域福祉課 福祉人材係 電話番号：058-272-1111(内3447)

E-mail：c11219@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 5,500 千円 (前年度予算額： 5,500 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	5,500	2,300	0	0	0	0	0	0	3,200
要求額	5,500	2,300	0	0	0	0	0	0	3,200
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

近年の大規模災害においては、災害ボランティアセンターから派遣されるボランティアに加え、多様な専門技術や知識を持つ専門ボランティア(NPO等)が大きな役割を果たしており、その重要性はますます高まっている。

しかし、市町村や市町村社会福祉協議会からは、専門ボランティアとどのように連携したらよいかわからないという意見があるなど、連携は不十分である。

(2) 事業内容

専門的な技術や知識のある専門ボランティアをコーディネートできる人材の設置及び、災害時に対応できるNPO等向けの研修を開催するための以下の事業に対して補助を行う。

- ①災害ボランティアコーディネーターの設置
- ②県外の被災地での体験型研修の実施
- ③災害時専門ボランティア養成研修の実施

(3) 県負担・補助率の考え方

生活困窮者就労準備支援事業費等補助金の補助対象事業

- ・生活困窮者支援等のための地域づくり事業（国庫補助率1/2）
- ・災害ボランティアセンター等機能強化事業（国庫補助率1/2）

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	5,500	①災害ボランティアコーディネーターの配置 ②県外の被災地での体験型研修の実施 ③災害時専門ボランティア養成研修の実施
合計	5,500	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・第5期県地域福祉支援計画

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

専門的な技術や知識のある専門ボランティアをコーディネートできる人材の設置・育成により、県外からの専門ボランティアの受入体制を整えるとともに、県内の専門ボランティアを養成することで、一般のボランティアでは対応できない被災者ニーズに応えられる体制を作る。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	R4年度実績	R5年度目標	R6年度目標	終期目標	
						達成率
①災害時専門ボランティア受入研修の参加者（人／年）	(R2) 0	82	100		(R5) 100	82%
②災害時専門ボランティア受入研修の参加者（延べ数）	(R5) 0			100	(R11) 600	—

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	
令和3年度	<p>県内5圏域において、平時の情報共有会議を実施し、専門ボランティア間の顔の見える関係の構築を図った。 また、コーディネーター向けの研修を実施し、その資質向上を図った。</p> <p>指標① 目標：100人 実績：58人 達成率：58%</p>
令和4年度	<p>県内5圏域で、災害時専門ボランティア受入研修を行い、専門ボランティアの養成を行った。 また、災害ボランティアコーディネーターの派遣により、市町村等における、専門ボランティア受入体制の強化を図った。</p> <p>指標① 目標：100人 実績：82人 達成率：82%</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価) 3	大規模災害発生後の被災地では様々なボランティア団体が支援に駆けつけ被災者支援活動を展開している。これらの団体をコーディネートすることで被災者と支援者をスムーズにつなげることができる。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価) 2	災害時専門ボランティア受入研修(R3は平時の情報共有会議)の参加者は、令和3年度の目標値を上回っており、期待どおりの成果をあげている。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 1	補助金交付先や、関係団体と密接に連絡をとり、効率的に事業を実施できるよう努めている。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 多様な専門ボランティアをコーディネートできる人材が不足している。
--

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 発生の可能性が高いとされている南海トラフ地震や、頻発化・激甚化の傾向がある台風、豪雨災害など、今後県内で被害が予想される災害に備え、引き続き、専門ボランティアの受入体制を推進していく必要がある。
--